

令和3年（2021年）8月の大雨特定災害対策本部会議（第5回）  
議事録

日時：令和3年8月17日11:00～11:28

場所：中央合同庁舎8号館3階 災害対策本部会議室

出席者：【本部長】 防災担当大臣  
【副本部長】 副大臣（防災担当）  
大臣政務官（防災担当）  
内閣官房 危機管理監  
【本部員】 内閣府 政策統括官（防災担当）  
内閣府 大臣官房審議官（防災担当）  
内閣府 大臣官房審議官（防災担当）  
内閣府 男女共同参画局長  
警察庁 警備局長  
総務省 大臣官房長  
(代理：大臣官房総務課長)  
総務省 総合通信基盤局長  
総務省 自治行政局公務員部長  
消防庁 次長  
消防庁 審議官  
財務省 大臣官房審議官（危機管理担当）  
(代理：大臣官房総合政策課政策推進室長)  
文部科学省 大臣官房文教施設企画・防災部長  
(代理：大臣官房文教施設企画・  
防災部参事官（施設防災担当）)  
厚生労働省 大臣官房危機管理・医務技術総括審議官  
農林水産省 大臣官房危機管理・政策立案総括審議官  
(代理：大臣官房地方課災害総合対策室長)  
経済産業省 大臣官房技術総括・保安審議官  
国土交通省 水管理・国土保全局長  
国土交通省 大臣官房危機管理・運輸安全政策審議官  
国土地理院 参事官  
(代理：総括測量・防災官)  
気象庁 気象防災監  
海上保安庁 海上保安監  
(代理：総務部参事官)

環境省	環境再生・資源循環局長 (代理：大臣官房サイバーセキュリティ・ 情報化審議官)
防衛省	統合幕僚監部総括官

1. 開会（内閣府政策統括官（防災担当）により議事次第に沿って議事進行）

2. 被害状況等の報告について

<気象庁>

資料に沿って説明

- ・九州を中心に非常に激しい雨が降っている所があり、これまでの記録的な大雨により、土砂災害の危険度が非常に高まっている所や、増水している河川がある。今後、低気圧や前線の北上に伴い、18日にかけて北日本を含めた広い範囲で大雨となる。その後も雨が続くため、一連の総雨量はさらに増える見込み。
- ・昨日は17日まで広い範囲としたが、1日後ろにずれているという状況である。
- ・18日21時の予想天気図は、対馬海峡付近にあった低気圧が北の方に進み、日本海中部に進んでくるところ。この低気圧前線に水蒸気が流れ込み大気の状態が不安定になり、前線が活発化する。西日本を中心に20日頃にかけて前線が停滞する見込み
- ・大雨については、九州北部が1,000ミリを超えているが、南部においても1,000ミリに近づいており、その他の地域でも500ミリから600ミリの多量の雨を既に降らせている。18日の6時までの24時間の総雨量については九州から四国で200から250ミリ、東海、近畿、中国で200ミリ程度の雨を予想している。次の24時間は中心が東にずれて、四国、東海で100ミリから200ミリ、中国、近畿、関東で100ミリから150ミリの見込み。
- ・18日まで広い範囲で警報級の大雨となる可能性が高く、その後西日本では、20日にかけて警報級の大雨の可能性が残るという状況。
- ・全体的な警戒状況は同じような状況。九州を中心に、これまでの記録的な大雨により、土砂災害の危険度が非常に高まっている所や、増水している河川がある。特に今まで降ったところに改めて激しい雨が降り続いた場合、土砂災害が多発するおそれがある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に厳重に警戒。竜巻などの激しい突風や落雷にも注意。
- ・直近24時間の降水量は昨夜から九州で降り始めたところを受けて、九州南部で記録を更新しているところが出てきている。これから東の方にも広がる見込み。トータル雨量は嬉野で1148ミリであり、これは8月の平年の月雨量の4倍の雨量である。このほか広い範囲で1,000ミリを超えるトータル雨量となる大雨となっている。

- ・向こう 1 週間の天気図は、20 日ごろにかけて前線は停滞し、そこまで警戒が必要である。21 日 22 日にかけて次第に太平洋高気圧が強まる。少し不安定が北の方に残るが、今のところの見立ては 20 日までというところ。引き続き自治体の避難情報等、各地の气象台で支援をしていきたい。

### 3. 被害状況及び各省庁の対応状況等について

#### <内閣府政策統括官（防災担当）>

- ・人的被害については、死者 4 名のほか、調査中死者、心肺停止、行方不明、安否不明の総数が 17 名となっており、昨日の 15 名から 2 名増えている。
- ・建物の被害は床上浸水、床下浸水の件数が増えてきた。これから数は増えていくと考えている。
- ・各省庁の対応としては、部隊やリエゾンなどそれぞれしっかりと対応をしていただいている。
- ・河川については、直轄、県管理合わせて 17 水系、52 河川が氾濫している。土砂災害は福島から鹿児島まで 85 件が確認されている。
- ・ライフラインについては、電力が 90 戸、水道が 529 戸となり、昨日より数は減ってきている。水道は応急給水作業を実施中。
- ・交通関係では、高速道路、鉄道などに土砂災害等による被害が確認されている。
- ・避難状況については、昨日と比較して若干減ったが、今朝の時点で 2, 273 名の方々が避難所に身を寄せている。収容人員を超えた避難所はなく、コロナ対策はしっかりと構築されている。

#### <警察庁>

##### 資料に沿って説明

- ・人的被害について、掲載資料の⑪、⑫が新たに追加されたものである。
- ・⑪は川岸で発見されたものである。⑫は連絡が取れず、行方が分からないというものである。
- ・救助活動については、147 名を救助している。昨日から増えた 19 名は単に報告がなされていなかったものであり、新たに救助がなされたものではない。
- ・被災地の夜間パトロール、避難所の見回り等地域の安全を確保するための活動を引き続き継続している。
- ・広域緊急援助隊についても、引き続き福岡に留め置いている。

#### <消防庁>

- ・広島県東広島市の田んぼを見に行っていた 1 人が帰らない事案、広島市安佐北区の車 1 台が川に転落した事案については、本日も引き続き捜索活動中である。
- ・佐賀県神埼市の土砂崩れに 1 人が巻き込まれた男性 1 人の事案については、救

出済みであり、軽傷であった。

- ・長崎県雲仙市の土砂崩れでの行方不明2名については、引き続き捜索活動中である。
- ・熊本県人吉市で1人が川に流された事案については、引き続き捜索活動中である。
- ・長野県王滝村での14人の孤立については、昨日長野県消防防災ヘリコプターにより救出済みである。
- ・緊急消防援助隊の活動について、本日も消防防災ヘリコプター計46機が待機中である。
- ・土砂災害警戒情報が出された鹿児島、熊本、佐賀、長崎各県下の市町村の避難指示等の発令状況を確認するとともに、いまだ発令のなかった市町村があった佐賀県、長崎県に対しては注意喚起を行ったところである。

#### <海上保安庁>

資料に沿って説明

- ・昨日同様、巡視船の前進配備、航空機による即応体制を維持している。
- ・L〇派遣が佐賀県庁、熊本県庁とあるが、現在これに加え、福岡県庁、長崎県庁、計4県にL〇派遣している。
- ・昨日以降、新たな被害情報はない。
- ・船舶に対する情報提供も随時実施中である。
- ・ドローンの運用班を佐賀県に前進投入している。

#### <防衛省>

資料に沿って説明

- ・引き続き自治体への連絡員の派遣、部隊の所要の要員の待機など厳重な警戒態勢をとっている。
- ・長崎県の雲仙市における土砂崩れの件について、本日も継続して約30名の人員で救助活動を実施している。
- ・六角川氾濫の関係で、昨日は救助のニーズはなく、住民への食事等の物資の輸送を実施した。本日は自治体のニーズに合わせて活動できるよう、現場に隊員を待機させ、即応体制を維持している。

#### <国土交通省>

- ・水管理・国土保全局からまず申し上げる。消防庁から話があったとおり、土砂災害警戒情報が発表された各市町村において、避難指示が的確に出されていたかについて、消防庁から県に確認していただいた。また、今朝9時時点、6県42市町に土砂災害警戒情報が発表されているが、避難指示がでていない自

治体に対し注意喚起をしていただき感謝する。

- ・私の方から、雨が上がったとしても、土砂災害警戒情報が発表され続けた場合に、避難指示を継続しなくてはいけないのかということ、しっかりとわかっていたために、資料を用意して県に送付している。その背景として、過去の事例を引き合いに出した。この根拠となっているところは、気象庁と国土交通省との間で土砂災害の情報は20年来、研究やデータ集めを実施してきており、1時間雨量と土壌雨量指数の両方の基準から判断し、気象庁の雨量予測も踏まえ、土砂災害発生の可能性が非常に高いという基準に入ると判断されたときに、土砂災害警戒情報が出される。土砂災害発生の可能性が非常に高いという基準から外れると、土砂災害警戒情報も解除するという形をとってきている。一時間雨量が突然多くなって、この基準を満たして実際に土砂災害が発生した例や一時間雨量は多くはないが、長く降り続いたことで、この基準を満たしたまま土砂災害が発生した例もある。今回のように雨が長く降り続いて、少し小康状態になったからといって安心してはならないということについて、しっかりと市町村の方にわかっていたかよう解説しながら、取り組んでいる。市町村の方々や住民の方々にもそのような分かりやすい情報提供に取り組んでいく。後半の雨にもしっかりと対応していく。
- ・公共交通関係について、今回の大雨では公共交通機関では主に鉄道が被害を受けている。現在のところ5事業者7路線8箇所が被害を確認している。昨日の報告後、新たに長野県のJR東海中央線で土砂流入の被害を確認している。
- ・これまでに土砂流入が発生していた、中央線古虎溪駅等2箇所が新たに復旧した。
- ・今後も降雨の状況を踏まえながら点検を継続しているところである。
- ・施設被害が発生している山口県内のJR西日本山陽線と長野県のアルピコ交通であるが、中国運輸局と北陸信越運輸局からTEC-FORCEの輸送支援班を派遣して被害の状況の確認と早期の復旧に向けた技術的な助言を行っている。そのほか11事業者30路線で運転見合わせが続いている。
- ・航空関係について、現時点で施設被害はない。本日も欠航便の予定はない。
- ・旅客船とバスについても、運休は発生しているが、現時点運休の規模は縮小している。
- ・支援物資の輸送について、広島県の要請を受けて、内閣府（防災担当）と連携しながら、広島県のトラック協会において、おにぎり1,000個、カップ麺600個、飲料水1,000本等の輸送協力を行っているという報告を受けている。

<総務省>

資料に沿って説明

- ・通信関係の被害状況については、携帯電話については、昨日までエリア支障が生

じていた広島県安芸太田町、北広島町及び福岡県八女市の一部地域については、応急復旧等によりエリア支障は解消しており、固定・携帯いずれも復旧している状況である

- ・通信環境の確保のため、地方公共団体の状況確認を随時行っており、福岡県に加えて、派遣ニーズのあった、長野県に災害時テレコム支援チーム (MIC-TEAM) を1名派遣している。
- ・通信事業者において、地方公共団体等の求めに応じて、長崎県島原市、佐賀県の避難所等へのWi-Fi アクセスポイント、充電器、通信機器等の追加貸し出しを行っている。

#### <厚生労働省>

##### 資料に沿って説明

- ・医療施設の被害状況は全て解消しており、DMAT の活動も本日時点で終了している。
- ・水道の被害状況について、長崎県、広島県、長崎県、熊本県内の11事業者において、水道管の破損等により529棟が断水中である。昨日は1,278棟であったため、これよりは減少している。現在、日本水道協会の支援等により、応急給水を実施している。
- ・雨が強まってきているため、引き続き、密に関係機関と連絡を取りながら、対応に努めていく。

(報道関係者入室)

#### 4. 棚橋特定災害対策本部長発言

##### <棚橋特定災害対策本部長>

- ・今回の大雨により、今朝8時時点で、お亡くなりになられた方が4名、さらに、お亡くなりになられた方で災害との関連を調査中の方が7名、行方不明の方が4名、安否不明の方が2名などの人的被害が報告されている。また、多数の住家被害も報告されている。
- ・お亡くなりになられた方にお悔やみを申し上げるとともに、ご家族の皆様方、関係者の皆様方に心よりお見舞い申し上げます。被災されたすべての方々にも心よりお見舞い申し上げます。
- ・本部員の皆様には、引き続き、地方自治体や関係機関と緊密に連携し、被害状況を迅速に把握するとともに、二次災害に十分注意しながら、人命第一の災害応急対策と早期のライフラインの復旧に全力で取り組むようお願いする。
- ・今朝も、九州地方をはじめ、西日本や東日本では、非常に激しい雨が降っているところがある。

- ・前線は 20 日頃にかけて停滞する見込みとなっており、引き続き、さらに大きな災害が起きてもおかしくない状況が続いている。
- ・本部員の皆様には、長丁場となっているが、引き続き、万全の体制を確保し、人命を第一に、先手先手で避難支援等の事前対策に取り組んでください。
- ・市町村長の皆様にあらためてお願いする。避難情報の発令は、市町村長が住民の命を守るための重要な権限である。国や県の河川・砂防部局や气象台との連携を密にし、空振りを恐れず、避難指示や緊急安全確保等の避難情報を適切に出すよう強くお願いをする。
- ・繰り返し申し上げます。市町村長の皆様にあらためてお願いする。避難情報の発令は、市町村長が住民の命を守るための重要な権限である。国や県の河川・砂防部局や气象台との連携を密にし、空振りを恐れず、避難指示や緊急安全確保等の避難情報を適切に出してください。
- ・都道府県知事の皆様には、住民への周知などについて、市町村の支援をお願いする。さらに新型コロナウイルス対策について、引き続き徹底をお願いする。
- ・国民の皆様におかれては、河川や水路、土砂崩れのおそれのある斜面など、危険な場所には近づかず、少しでも危険を感じたら躊躇せずに避難するなど、命を守る行動をとってください。明るいうちの安全な場所への避難、家族や知人への積極的な声かけも是非お願いする。
- ・一時的に雨が弱まったとしても、災害のおそれは続いている。このような気象が続き、心身ともにお疲れのこともあるかと存じるが、避難情報や気象情報に留意し、避難を継続したり、再度避難したりするなど、警戒感を緩めないよう強くお願いする。
- ・この点再度申し上げます。一時的に雨が弱まったとしても、災害のおそれは続いている。このような気象が続き、さぞや心身ともにお疲れのこともあるかと存じるが、避難情報や気象情報に留意し、避難を継続したり、再度避難したりするなど、命を守るという観点から警戒感を緩めないよう強くお願いする。

(報道関係者退室)

## 5. 閉会